

PRESS RELEASE

プレスリリース

始めよるか、天才観測。

特別展

本阿弥
光悦の
大宇宙



国宝 舟橋蒔絵硯箱
本阿弥光悦作
江戸時代・17世紀
東京国立博物館蔵

2024年

1月16日[火]ー3月10日[日]

TNM 東京国立博物館 平成館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

Special Exhibition

The Artistic Cosmos of Hon'ami Kōetsu

※会期中、一部作品の展示替えを行います。

開催趣旨

本阿弥光悦（ほんあみこうえつ・1558～1637）は戦乱の時代に生き、さまざまな造形にかかわり、革新的で傑出した品々を生み出しました。それらは後代の日本文化に大きな影響を与えています。しかし光悦の世界は大宇宙（マクロコスモス）のごとく深淵で、その全体像をたどることは容易ではありません。

そこでこの展覧会では、光悦自身の手による書や作陶にあらわれた内面世界と、同じ信仰のもとに参集した工匠たちがかかわった蒔絵など同時代の社会状況に応答した造形とを結び付ける糸として、本阿弥家の信仰とともに、当時の法華町衆の社会についても注目します。造形の世界の最新研究と信仰のあり様とを照らしあわせることで、総合的に光悦を見通そうとするものです。

「一生涯へつらい候事至てきらひの人」で「異風者」（『本阿弥行状記』）といわれた光悦が、篤い信仰のもと確固とした精神に裏打ちされた美意識によって作り上げた諸芸の優品の数々は、現代において私たちの目にどのように映るのか。本展を通じて紹介いたします。

独特のフォルムと
素材の質感、
文学世界と書が
織りなすイメージの連環

漆

国宝「舟橋蒔絵硯箱」をはじめとした大胆といえる造形感覚を表わす「光悦蒔絵」の数々を展示して、その融通無碍ともいえる魅力を実感していただけます。あわせて「光悦謠本」など文学世界との関わりから、光悦の斬新な形態を読み解きます。

光悦の美意識が
高く昇華した
書の魅力を
余すところなく体験

書

光悦の精彩に富んだ書の名品の数々とともに、重要文化財「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」全巻を通期展示するなど、字形の妙と精彩ある墨色と筆勢とが一体になった姿をご覧いただき、光悦の手の動きそのものを体感できる展示を行います。

見どころ

光悦の篤い信仰心を
うかがい知ることの
できる品々を紹介

信

本阿弥一門の菩提寺・本法寺に寄進した重要文化財「紫紙金字法華経并開結」や、寺外では初めて公開される光悦が大書した中山法華経寺の扁額など、これまで顧みられなかった光悦の信仰に関わる品々を通して、光悦芸術の源泉を探ります。

刀剣を見極める
本阿弥家の審美眼に
よって選び抜かれた
名刀たちの競演

刀

およそ40年ぶりに公開される重要美術品「短刀 銘兼氏金象嵌花形見」や、「刀 金象嵌銘 江磨上 光徳（花押）（名物 北野江）」など光悦ゆかりの名刀や刀剣資料を通して、本阿弥家の実像に迫ります。

個性的な
フォルムをみせる
名碗の数々でたどる、
光悦の創造の軌跡

陶

重要文化財「黒楽茶碗 銘時雨」などをはじめとした革新的ともいえる造形美で、圧倒的な存在感を放つ光悦の名碗を厳選し、ご覧いただけます。あわせて樂家歴代の作品とともに制作の背景を探ります。

光悦のここが すごい!

刀剣鑑定の名門家系の生まれ

光悦自身も優れた目利きの力量を持ち、徳川將軍家や大名たちに一目置かれました。

篤い信仰の人々との強い結束

京都の町衆（裕福な商工業者）の一員として、さまざまな職種の工人（職人）たちと信仰と血縁を重ねて、広範なネットワークを築いていました。

総合芸術家の光悦

家職（家業）だけでなく、能書（書の名人）として知られ、さらに漆芸や陶芸、出版などさまざまな造形に関わりました。

光悦芸術のすばらしさ

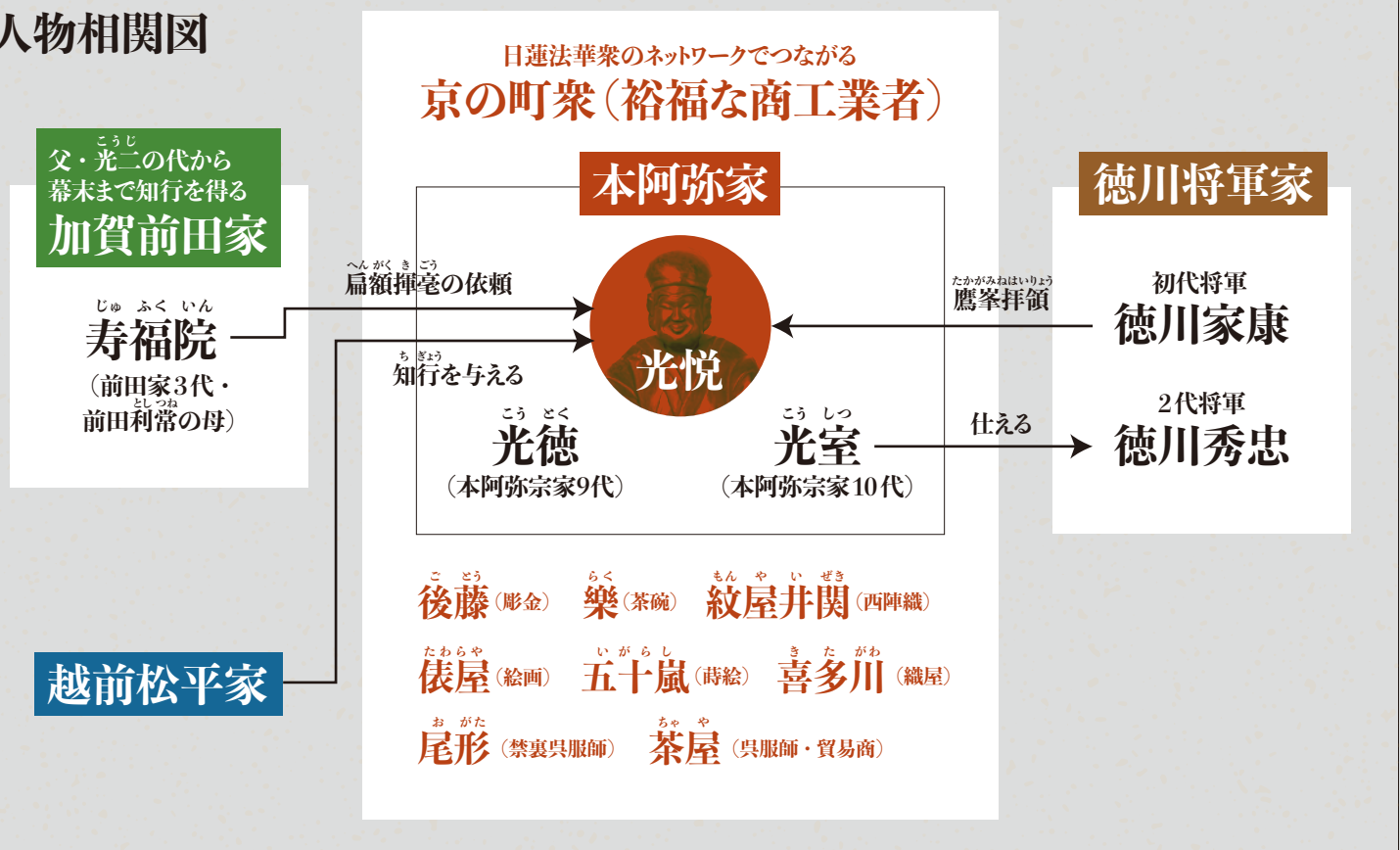
今に伝わる光悦が手がけた品々の多くが、国宝や重要文化財に指定されるなど、高く評価されています。



ほんあみこうえつざぶろう
本阿弥光悦坐像
伝本阿弥光甫作 江戸時代・17世紀

※展示期間の表記がない作品は通期展示を予定しています。

人物相関図

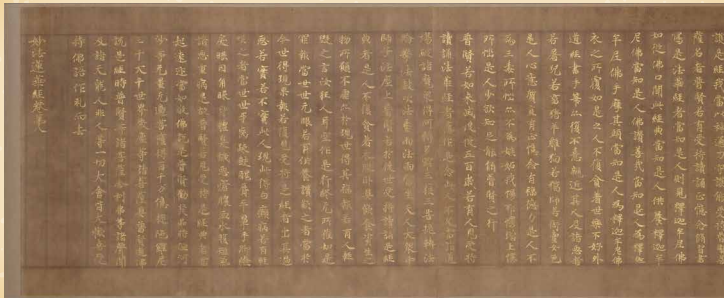


か しょく ほっ け 本阿弥家の家職と法華信仰

— 光悦芸術の源泉

光悦は刀剣の研磨や鑑定などを家職とする本阿弥家に生まれました。刀剣の価値を引き出し見定める審美眼と刀剣を介した人脈が、光悦の後半生に展開される多彩な芸術活動の背景にあります。そして、本阿弥家は法華宗に深く帰依し、光悦もまた熱心な法華信徒でした。光悦が晩年に京都・鷹峯にひらいた光悦村には、法華信仰で結ばれた様々な美術工芸分野の職人たちが集ったとみられます。本章では、本阿弥家の家職と信仰に関わる品々を通して、光悦芸術の源泉を紹介します。

『法華経』第8巻・巻末



『法華経』第8巻・巻首



重要文化財

し し きん じ ほ け きょうならびにかいけつ 紫紙金字法華経并開結

平安時代・11世紀 京都・本法寺蔵
※会期中、部分巻替えがあります。

『法華経』8巻と開結『無量義経』、結経『観普賢経』とあわせて10巻1具を完備します。光悦が記した寄進状には「道風之法華経」とあって、「三跡」で知られる小野道風（おののとうふう・894～966）筆とされていたことがわかり、平安時代中期の書写と考えられます。光悦が一門の菩提寺・本法寺に経箱とともに寄進したもので、極めて篤い信仰心がうかがえます。

重要美術品

たん とう かねうじ きんぞうがん はながた み 短刀 銘兼氏 金象嵌 花形見

志津兼氏 鎌倉～南北朝時代・14世紀

志津兼氏は地鉄と刃文を強調した作風で名高い刀工。本作は光悦の指料と伝わる唯一の刀剣で、注目は茎にある花形見の金象嵌です。そして、拵（刀身をおさめる刀装）は鮮やかな朱漆塗りの鞘に金蒔絵で忍ぶ草を全体に表わした華麗なものです。花形見の金象嵌と忍ぶ草の金蒔絵、その言葉や意匠の意味を読み解くと、光悦の秘めた想いがみえてきます。



(刀装) 刻鞘変り塗忍ぶ草
蒔絵合口腰刀
江戸時代・17世紀



〔茎部分〕



かたな きんぞうがん ごうすりあげ こうとく か おう めいぶつ きたの ごう 刀 金象嵌銘 江磨上 光徳 (花押) (名物 北野江)

郷(江)義弘 鎌倉～南北朝時代・14世紀 東京国立博物館蔵

郷(江)義弘は本阿弥家により別格に高く評価された刀工です。光悦が仕えた加賀藩主・前田家に伝来し、「北野江」の号は前田利常が京都・北野天満宮のほとりで本作を試し斬りしたことに由来します。茎には本阿弥光徳の金象嵌銘があり、その銘字は光悦の筆になると伝わります。数少ない江の作刀に、さらに光悦の書という希少価値が加えられた、唯一無二の存在です。



〔茎部分〕

第2章

謡本と 光悦蒔絵

炸裂する言葉とかたち

繊細な蒔絵のわざに大きな鉛板を持ち込み、華麗な螺鈿を自在に用いる大胆な造形が、近世初頭に突如として出現します。俵屋宗達風の意匠をもち、融通無碍な魅力を放つこれら一連の漆作品は、現在「光悦蒔絵」と称されています。そこには、本阿弥光悦が何らかの形で関与したと考えられているからです。独特の表現やモチーフの背後には、とくに光悦が深く嗜んだ謡曲の文化があったことがうかがわれます。斬新な形態にいたる造形の流れと、それを読み解く豊饒な文学世界から、あらためて「光悦蒔絵」の姿を照射します。



重要文化財

はな からくさもん ら だんきょうぼこ
花唐草文螺鈿経箱

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 京都・本法寺蔵

本阿弥一門の菩提寺である本法寺に、光悦は法華經并開結10巻1具および青貝の箱を寄進しています。本作はこれにあたると思われ、漆工品において資料の上で光悦自身と直接結びつけることのできる唯一の作例です。当時流行していた朝鮮王朝時代風の螺鈿表現を基調としながら、「法華經」の文字を中心に、やわらかく律動的に翻転する独自の意匠が生み出されています。

重要文化財

ぶ がくまきえ すずりばこ
舞楽蒔絵硯箱

江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵

蓋表には鳥兜を被った舞人を描き、蓋裏には扇と舞楽装束を配しています。対象に近接した構図や鉛板象嵌などの特徴は国宝「舟橋蒔絵硯箱」とも共通する一方、緻密で多彩な技法と素材が駆使された密度の濃い装飾は、また別の制作環境に属するものと見えます。「光悦蒔絵」と称されてきた作品群の多様性を窺わせる興味深い作例です。



国宝

ふなばし まきえ すずりばこ
舟橋蒔絵硯箱

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵

金地のかがやきに黒々とした鉛、形態の破裂しそうな膨張感は、文房具としての常識を逸脱した異様な姿です。「舟橋」の意匠には、光悦流の銀板文字が躍るように散らされています。さながら光悦の和歌色紙を立体化したような造形で、当時の所用者は「舟橋」の和歌やその背後の物語が、光悦の手で演出された新鮮なものに感じられたのではないのでしょうか。



[側面]



光悦の筆線と字姿

——二次元空間の妙技

斬新な図案の料紙を用いた和歌巻に代表される光悦の書は、肥瘦をきかせた筆線の抑揚と、下絵に呼応した巧みな散らし書きで知られます。しかし光悦の書の特徴は、大胆な装飾性だけではありません。鋭く張りつめた筆致で書かれた法華宗関係の書は、光悦の真摯な信仰を反映しています。書状に見られる潤い豊かな線質は、光悦の天性を感じさせる一方、晩年に顕著となる筆を傾けた書き方は、中風との格闘の跡と考えられます。本章では、多彩な表情を見せる筆線と字姿を通じて、能書とうたわれた光悦の、生身の表現力をご覧ください。



[部分]

重要文化財

つるした え さんじゅうろっ か せん わ か かん 鶴下絵三十六歌仙和歌巻

本阿弥光悦筆／俵屋宗達下絵
江戸時代・17世紀 京都国立博物館蔵

飛び渡る鶴の群れを金銀泥で描いた料紙に、平安時代までの三十六歌仙の和歌を散らし書きした一巻です。鶴の上昇と下降、群れの密度に合わせて、字形と字配りを巧みに変化させています。俵屋宗達筆とされる下絵と協調し、あるいは競い合うように展開するその書は、光悦が最も充実した作風を示した時期の代表作と評されています。



はすした え ひやくにんいっ しゅう わ か かん だん かん 蓮下絵百人一首和歌巻断簡

本阿弥光悦筆 江戸時代・17世紀
東京国立博物館蔵

法華信徒にとって特別な意味を持つ蓮を描いた料紙に、光悦が小倉百人一首を揮毫した和歌巻の断簡です。深く透明感のある文字の墨色が、鉛色を呈する蓮華と調和し、静謐な景色をつくり出しています。もとは100首の和歌を完備する長大な作品でしたが、うち60首分が関東大震災で焼失し、残る断簡（切断された一部）が各所に分蔵されています。

第4章

光悦茶碗 —— 土の刀剣

口づくりや腰、高台の形はさまざまで、定型のない個性的な光悦の茶碗。大胆に饅削りを残していたり、ざらざらとした素地の土そのままであったり、一碗一碗じつに表情豊かです。太平の世を迎えた江戸時代初頭にあつて、光悦は元和元年（1615）鷹峯の地を拝領した頃より、樂家2代・常慶とその子道入との交遊のなかで茶碗制作を行なつたと考えられています。いまなお圧倒的な存在感を放つ名碗の数々から、その創造の軌跡をたどります。



重要文化財

黒楽茶碗 銘時雨

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 愛知・名古屋市博物館蔵

黒楽茶碗は、手づくねで成形し、饅で削り込んでつくりあげていきます。光悦が手がけたとされる茶碗には、それぞれ各所に光悦自身の手の動きを感じさせるような作為が認められますが、本作品ではそれが抑えられ、全体に静謐な印象を与えます。名古屋の数寄者・森川如春庵が16歳の若さで手にしたことでも知られています。

重要文化財

赤楽茶碗 銘加賀

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 京都・相国寺蔵

腰が張った筒形で、胴には縦方向の大胆な饅削りが入っています。また、釉を筆で何度も塗り重ねて白と赤を表現した様子がみとれます。光悦の茶碗のなかでも、装飾的と評されるほど強い作為を感じさせます。付属の箱書きによると、加賀の名は裏千家4代・仙叟宗室が前田家に仕官していた折に所持していたことから付いたと伝わります。



重要文化財

赤楽兎文香合

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京・出光美術館蔵

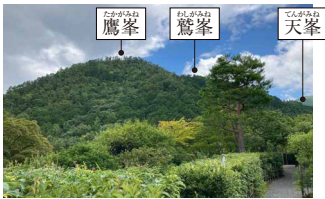
光悦作の香合のなかで出色の出来と評される作品。蓋表に白土と黒の上絵具で草むらを駆ける兎の姿を表わしています。饅でざくざくと大胆に削り、スピードをもって筆を走らせる様子が目に浮かぶようです。茶人として知られた江戸時代後期の松江藩主・松平不味と、近代数寄者として名を馳せた原三溪旧蔵品です。



本阿弥光悦 ゆかりの地

京都

1 鷹峯



鷹峯三山（鷹峯、鷲峯、天峯）を望む

2 光悦寺

光悦が草庵とともに建てた法華題目堂にはじまる寺。



光悦墓



庭園の光悦垣



光悦寺から京都市内を望む、右に鷹峯



3 常照寺

扁額「学室」揮毫。

4 本法寺

本阿弥一門の菩提寺。扁額「本法寺」「通品」揮毫。

5 妙顕寺

前田家3代・前田利常の母、寿福院の依頼により扁額を揮毫。

6 光悦屋敷・本阿弥辻子

光悦の屋敷。本阿弥本家ら一族が集結した一帯。

関東・山梨

1 妙法寺（東京都台東区）

本阿弥宗家ははじめ一門の江戸における菩提所。

2 池上本門寺（東京都大田区）

扁額「本門寺」「長栄山」「祖師堂」揮毫。

3 中山法華経寺（千葉県市川市）

本阿弥宗家ははじめ一門の菩提所。扁額「正中山」「祖師堂」「妙法花寺」「通本」揮毫。



光悦分骨墓

4 日本寺（千葉県香取郡）

扁額「正東山」揮毫。

5 本遠寺（山梨県南巨摩郡）

扁額「本遠寺」揮毫。



北陸

加賀前田藩（金沢）

父・光二の後を受けて、加賀前田藩から扶持を受け、刀剣御用を勤める。

福井藩（福井）

初代福井藩主・結城秀康の代に禄を与えられる。

特別展「本阿弥光悦の大世界」

開催概要

会期 2024年1月16日（火）～3月10日（日）※会期中、一部作品の展示替えを行います。

主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞

協賛 光村印刷

協力 日本文化芸術の礎

公式サイト <https://koetsu2024.jp/>

Twitter @koetsu2024

※開館時間、休館日、入館方法、観覧料金等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。

※展示作品、会期、展示期間等については、今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報は本サイト等でご確認ください。

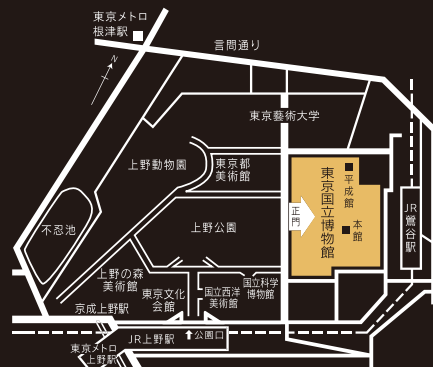
本プレスリリース掲載画像を無断で転載することを禁じます。

報道関係お問合わせ

特別展「本阿弥光悦の大世界」広報事務局（ユース・プランニングセンター内）

〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4階

TEL: 03-6820-8105 E-mail: koetsu2024@ypcpr.com



TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館公式ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

JR 上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
東京外口 銀座線・日比谷線 上野駅、千代田線 根津駅より徒歩15分
京成電鉄 京成上野駅より徒歩15分